令和８年度

各教科等のシラバス



宇都宮市立陽北中学校

Ⅰ国 語 科

1　学ぶ目的・目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指します。

（1）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにします。

・言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、わが国の言語文化に関する「知識及び技能」に関して学びます。こうした「知識及び技能」を社会生活で主体的に活用できるように習得していきます。

（2）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養います。

・互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めます。
また、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養います。

（3）言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、わが国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養います。

・言葉が持つ価値とは、言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすることや、言葉を通じて人や社会について理解を深めることです。また、言語感覚とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜についての感覚のことです。この言語感覚を豊かにすることで、ものの見方や考え方を形成することに役立ちます。

2　３年間で学ぶ内容

１年生　週４時間（140 時間）
２年生　週４時間（140 時間）
３年生　週３時間（105 時間）

国　語	書　写	
国　語	書　写	
国　語	書　写	

【国語の内容】
〔知識及び技能〕
（１）　言葉の特徴や使い方に関する事項
（２）　情報の扱い方に関する事項
（３）　我が国の言語文化に関する事項
〔思考力・判断力・表現力等〕　Ａ話すこと・聞くこと　Ｂ書くこと　Ｃ読むこと

3　学習の心得

（1）授業に主体的に取り組みましょう。

授業は集中して取り組みましょう。授業のめあて（目標）を理解し、見通しを立て、学習のゴールへ向けて学習活動に取り組むことが大切です。自分の学習の状況を振り返り、学習を調整する力を身に付けましょう。

・先生の話をしっかり聞き、よく考える習慣を身に付けましょう。（わからない・疑問に思ったところは質問しましょう）
・丁寧に、見やすくノートを取りましょう。（授業中聞き取った重要なこともメモしましょう）
・与えられた課題等は期日内に必ず提出しましょう。（ワークは計画的に進めましょう）

4　評価の観点・対象と方法

国語科では、日々の学習の状況や定期テスト、単元テスト、ノート、レポート、作品や提出物への取り組みなどをもとに総合的に判断します。具体的には以下の３つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評価対象・方法
【知識・技能】社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項 （例）漢字、語句、文法、敬語、表現技法など ・情報の扱い方に関する事項 （例）情報と情報との関係、情報の整理 ・わが国の言語文化に関する事項 （例）古典、書写、読書	・定期テスト ・単元テスト、小テスト （事実的な知識を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題）
【思考・判断・表現】　社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養っている。 A「話すこと・聞くこと」・・・(例)話題の設定、構成の検討、表現、話合いの進め方の検討など B「書くこと」・・・(例)題材の設定、情報の収集、構成の検討、記述、推敲など C「読むこと」(説明的な文章、文学的な文章)・・・(例)構造と内容の把握、解釈、考えの形成など	・定期テスト ・単元テスト ・ノートやワークシート、レポートの内容 ・発表やグループでの話し合い ・作品の制作や表現
【主体的に学習に取り組む態度】　言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、わが国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養っている。 （1）知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしているか。 （2）の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているか。	・授業への取り組み、発言 ・ノートやワークシート、レポート等の記述 ・自己評価や相互評価の状況 ・ふり返りの内容

5　授業に必要なもの

・教科書　・ノート　・国語ワーク　・漢字ワーク　・個人用パソコン
・国語ファイル（ワークシートやプリント類は全てファイルに閉じこみましょう。）
・習字道具（半紙も含む）→いつでも持ってこられるようにしておきましょう。

Ⅱ 社 会 科

1　学ぶ目的

社会科はこれからを生きるための認識と判断力を養う教科です。私たちが生きている社会がどのように動いているのかを知り、やがてこの社会の担い手となるためには、どのように考え、行動すればよいのかを学びます。民主的な社会の形成者となることができるよう、その基礎となる知識・技能を修得し、よりよい社会にするために必要なものの見方や考え方を学びます。

社会科の学習で大切なことは、過去や現在のすべての出来事や人々の生き方に関して、「どうしてだろう」「なぜだろう」という疑問を持つことです。そこから社会科のおもしろさは始まります。

2　３年間で学ぶ内容

１年生　週３時間（105 時間）
２年生　週３時間（105 時間）
３年生　週４時間（140 時間）

歴　史		地　理
歴　史		地　理
歴史	公　民	

※１・２年生は地理的分野と歴史的分野を単元で区切って交互に進めていきます。
　３年生はまず歴史的分野を学習し、その後公民的分野を学習します。

（１）地理的分野（115 時間）
　世界や日本の諸地域の自然の特色や人々の暮らし、文化・産業のようすなどを学習します。

（２）歴史的分野（135 時間）
　日本の歴史をその背景となる世界の歴史の動きとともに学習します。時代の移り変わりや文化・社会の様子を学びます。

（３）公民的分野（100 時間）
　地理・歴史で学んだことをもとに、現代社会がどのようなしくみで動いているかを学習します。人権や民主主義、経済のしくみと私たちの生活との関わり、国際社会のあり方などを学びます。

3　学習の心得

（１）授業に主体的に取り組みましょう
　学力向上のポイントの一つは、授業に「主体的（自ら進んで）に参加すること」です。
そのための具体的な方法は以下の通りです。

易 ↓ 難

① 先生の話、他の生徒との質疑応答を集中して聞く。
② ペアトークやグループでの話し合い活動で積極的に対話する。
③ 充実したノートをつくる。授業の内容を自分なりに工夫してノートにまとめる。
　○ 重要な内容等を、色を使って強調する。
　○ 先生の話や級友の発言、自分の考えを、吹き出し等を使ってメモをする。
④ 授業でわからなかったことは、後で教科書や資料集、ＰＣ等を使って調べる。
⑤ 様々な資料に触れ、何をどのように読み取るべきかを習得する。
⑥ 「単元を貫く問い」や「本時のめあて」等の問いかけに対し、その答えやまとめを自分の言葉で表現する。
⑦ 全体共有の場面で、自分の考えを積極的に発表したり、級友と議論したりする。
⑧ ニュースや書籍等で知ったことや興味・関心を持ったことを、授業で学んだ事柄と関連付けて、自分で詳しく調べ、レポート等にまとめる。

（2）家庭学習をしっかりやりましょう・・・別紙参照

4　評価の観点・対象と方法

社会科では、日常の学習への取り組みや定期テスト、ノート（ワークシート)、振り返りや課題などの内容をもとに総合的に判断します。具体的には以下の３つの観点それぞれについて評価の基準を定め、それをもとに評価をします。

観点別の内容	評価対象・方法
【知識・技能】 社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、様々な場面で活用できる知識を獲得している。収集した情報を読み取り、まとめる技能を身に付けている。	定期テスト ノート（ワークシート） 振り返りの内容 資料の読み取り及び活用
【思考・判断・表現】 社会的事象から課題を見いだし、事象相互の関連を多面的･多角的に考察しながら、その特色や意義を判断し、表現することができる。	定期テスト ノート（ワークシート） 課題（レポート）の内容 話合い活動の様子・発言 振り返りの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 社会的事象に対する関心をもち、見通しをもちながら意欲的に追究し、より良い社会の実現を目指して主体的に課題を解決しようとすることができる。	授業への取組 ノート（ワークシート） 課題（レポート）の内容 振り返りの内容

5　その他

近年の高校入試問題の傾向について

〈 出題の傾向 〉

・問題文の字数が増加、基礎知識をもとに、資料を読み取って回答する問題が増加している。

〈 身に付けておきたい力 〉

・「知識・技能」の習得を前提とし、文章・図・表を正確に読み取り、適切に表現する「思考力・判断力・表現力」

具体的には・・・

①一つ一つの用語の内容・背景を深く理解すること。

②基本的な知識をもとに、資料から必要な情報を読み解く力。

③社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現する力。

④地理では、地図やグラフ等の資料を活用して、複数の資料を整理する情報処理能力。

⑤歴史では、時代の転換や展開、因果関係を理解したり、歴史的事象についてその背景の理解度を深めたりする力。

⑥公民では、持続可能な社会の実現に関することへの知識や自分の考え、それを表現する力。

Ⅲ 数 学 科

1　学ぶ目的

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

①基礎的な概念や法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付ける。

②数学を活用して事象を論理的に考察する力、性質を見いだし統合・発展的に考察する力、数学的表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

③数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、思考の過程を振り返り評価・改善しようとする態度を養う。

2　３年間で学ぶ内容

１年生 週４時間（140 時間）
２年生 週３時間（105 時間）
３年生 週４時間（140 時間）

数と式	関数	図形	データの活用
数と式	関数	図形	データの活用
数と式	関数	図形	データの活用

3　学習の心得

（１）１時間ごとの授業を大切に、授業に主体的に取り組みましょう。（気になることは率先してメモをとり、質問しましょう・調べましょう。）

（２）家庭学習にしっかり取り組み、復習に力を入れましょう。

（３）教科書やワーク・ＡＩドリルの問題に繰り返し取り組み、学習内容を定着させましょう。（特に、間違えた問題をチェックし、できるようになるまで何回も解き直しましょう。）

4　評価の観点・対象と方法

数学科では、日常の学習への取り組みや定期テスト・単元テスト・ノート・学習課題などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の３つの観点を設け、それぞれについて評価規準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評価対象・方法
【① 知識・技能】 ・基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付けている。	定期テスト　単元テスト 授業への取組、学習課題 ノート・ワークシート　など
【② 思考・判断・表現】 ・数の性質と計算や数量関係、関数関係、図形の性質及び調査の方法や結果について適切に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	定期テスト　単元テスト 授業への取組、学習課題 ノート・ワークシート　など
【③ 主体的に学習に取り組む態度】 ・数学を生活や学習に生かそうとしたり、思考の過程を振り返り評価・改善しようとしたり、多様な考えを認めよりよく問題を解決しようとしている。 ・①、②の力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整している。	学習の振り返りの内容 授業への取組 学習課題 ノート・ワークシート　など

Ⅳ 理 科

1　学ぶ目標

自然の事物・現象に進んで関わり、その中に問題を見いだし意欲的に探究する活動を通して、多様性や規則性を発見したり課題を解決したりする方法を学びます。

また、自然の事物・現象についての観察・実験を行い、その技能を習得し、結果を分析して解釈し表現する能力を身に付け、科学的な見方や考え方を養います。

そして、調べる活動を通して生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けて、自然を総合的に見ることができるようにします。

2　３年間で学ぶ内容

全学年とも「生命」「地球」「物質」「エネルギー」の４つの単元を学習します。また、３年生はそれに加えて「環境」の単元があります。

１年生　週３時間（105 時間）「いろいろな生物とその共通点」「活きている地球」
「身のまわりの物質」「光・音・力による現象」
２年生　週４時間（140 時間）「生物の体のつくりとはたらき」「地球の大気と天気の変化」
「化学変化と原子・分子」「電流とその利用」
３年生　週４時間（140 時間）「生命の連続性」「宇宙を観る」
「化学変化とイオン」「運動とエネルギー」「自然と人間」

3　学習の心得

（1）授業に主体的に取り組みましょう

「学ぼう」とする自分の意欲が第一です。そのために、授業中は集中して学習に取り組みましょう。授業の中でしっかり学べば一番効率的に記憶に残ります。具体的には、次のようなことを心がけて授業に臨みましょう。

・先生の話をしっかり聞きましょう
・丁寧にノートを取りましょう（自分なりの工夫をするとよりすばらしい）
・観察や実験は注意事項をきちんと守り、安全かつ積極的に行いましょう
・「この時間では○○を解き明かす！」と目的意識をもって学習に臨みましょう
・「なぜそうなる？」「なぜそうする？」をよく考えて学習に取り組みましょう

（2）家庭学習をしっかりやりましょう・・・別紙参照

4　評価の観点・対象と方法

以下の３つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。定期テスト、単元テスト等のテストの結果に加え、授業への取組（ノートの取り方含む)、ふり返りシートの記入内容、理科研究や課題への取組などを総合的に判断します。

観　点　別　の　内　容	評価対象・方法
【知識・技能】 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	定期テスト・単元テスト・授業への取組・ふり返りの内容などを総合的に評価
【思考・判断・表現】 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	定期テスト・単元テスト・授業への取組・ふり返りの内容・課題などを総合的に評価
【主体的に学習に取り組む態度】 自然の事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。	授業への取組・ふり返りの内容・理科研究や課題などを総合的に評価

Ⅴ 音 楽 科

1　音楽科の学習で身につけること

「表現」及び「鑑賞」の幅広い活動を通して、**「音楽的な見方・考え方」を身に付け、**生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成していきます。

「資質」「能力」とは、①「知識及び技能」の習得に関すること。②「思考力、判断力、表現力等」の育成に関すること。③「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関することを示しています。

2　３年間で学ぶ内容

A　表現	B　鑑賞
○歌唱…発声、斉唱や合唱(コンクール) ○器楽…アルトリコーダー、ギター など ○創作…リズムやメロディーの創作	○鑑賞…多様な音楽に触れ、それらを根拠を持って批評する

１年生：【計４５時間】 週１時間（Ⅱ期・Ⅲ期）＋週２時間（Ⅰ期）
２年生：【計３５時間】 週１時間
３年生：【計３５時間】 週１時間

3　学習の心得（取り組み方のポイント）

◎主体的に活動に取り組んでいきましょう。

・「今日はどんなことを学習するのだろう」という好奇心を持って授業に臨みましょう。『知ろうとする姿勢』が知識や技術の習得を大いに助けます。
・歌うときは「歌う人」、楽器を吹くときには「楽器を吹く人」など、その気になって取り組んでいきましょう。
・合唱やアンサンブル活動では、協力して取り組んでいきましょう。

◎学習カードの感想やイメージ等には、音楽的なことばを交えて書いていきましょう。

・話も音楽も、自然に耳に入ってくる「聞く」ではなく、**意識して考えながら「聴く」**ことを大切にしましょう。そうすることで、自分なりの思いや考えが生まれます。
・発表やテストもしっかり聴いて、自分の学びにしていきましょう。

4　評価の観点・対象と方法

音楽科では、日常の活動への取組の様子や、発表による実技テスト、学習カード（知識や自身の思いや考え・意図など）等をもとに総合的に判断し評価します。

具体的には以下の３つの観点を設け、それぞれについての評価基準を定め、観点別評価とともに評定を算出します。

観　点　別　の　内　容	評価対象・方法
【知識・技能】 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解し（知識)、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な(技能)を身に付け、歌唱・器楽・創作で表すことできる。	・題材への取組 ・学習カード ・実技テスト等
【思考・判断・表現】 題材に対して自分なりの思いや考えを持ち（思考)、どのような表現がふさわしいか選択して（判断）音楽表現を工夫したり(表現)、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができる。	・題材への取組 ・学習カード ・実技テスト等
【主体的に学習に取り組む態度】 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。	・題材への取組(発言・発表) ・学習カード ・合唱や実技テスト等

Ⅵ 美 術 科

１．美術科の学習で身に付けること

「表現」の各題材では、造形的な見方や考え方を働かせ、様々な表現技法を学びながら制作を進めます。また、生活の中の造形的な事象や美術のはたらき・美術文化に興味を持ち、生涯にわたって美術に関わっていこうとする主体的な態度を培います。

「鑑賞」の授業では、美術作品の良さや美術文化について理解し、見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりについて考えます。また、表現活動で制作された他者の作品の良さを見出し、言語化する活動を通して、豊かな心情を育んでいきます。

２．３年間で学ぶ内容

１学年　週１時間(1 期・３期)＋週２時間(２期)（計 45 時間）

２学年　週１時間（35 時間）

３学年　週１時間（35 時間）

表現(絵画・デザイン・版画)	鑑賞(題材毎の相互鑑賞を含む)
表現(絵画・デザイン・版画)	鑑賞(題材毎の相互鑑賞を含む)
表現(絵画・デザイン・複合・版画)	鑑賞(題材毎の相互鑑賞を含む)

３．学習のポイント

（１）授業に主体的に取り組みましょう。

美術科において大切なことは「自分らしさ」を表現することです。十人十色の良さを生かし、個性的な作品を創作してください。

（２）鑑賞の授業において、思ったこと・感じたことを「自分なりの言葉」で表現しましょう。

制作することだけが美術科の学習ではありません。名作とされる作品や、友人の作品を味わうことで、自分の表現の幅を広げ、感受性を高めましょう。

４．評価の観点・対象と方法

美術科では、日常の制作への取組の様子や、作品の進行状況・出来栄え・鑑賞の成果等を学習シートやスケッチブックの記載内容をもとに総合的に判断し、評価します。具体的には以下の３つの観点を設け、それぞれについての評価基準を定め、観点別評価とともに評定を算出します。各評価項目の得点を３点満点(未提出・不参加は得点無し)とし、その積算が評価・評定に反映されます。

観　点　別　の　内　容	評価対象・方法
【知識・技能】 色彩や材料等の効果や特徴等を理解し(知識)、自分に合った表現技法を生かし(技能)、表現・制作することができる。	・題材への取組 ・学習シート ・作品等
【思考・判断・表現】 各題材の表現活動(思考)を通して、自分なりに創作(判断)し、どのように制作(表現)を進めていくかを考えることができる。 鑑賞対象作品を客観的に味わい、自分なりの見方や感じ方を広げることができる。	・アイデアスケッチ ・学習シート ・作品 ・振り返りシート等
【主体的に学習に取り組む態度】 各題材の表現活動や鑑賞活動に対して、自分なりの目標を持って総合的かつ積極的に取り組むことができる。	・題材への取組・学習シート・作品・振り返りシート等の総括

Ⅶ 保健体育科

1　学ぶ目的

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現することは、心と体の健康を保持増進するためにとても大切なことです。保健体育科の学習では、各種の運動の楽しさや喜びを味わいながら、仲間と協力して課題解決に向けた技能や知識の向上と、それを活用する考えを深めていきます。

また、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応していくことが求められる中で、健康の保持増進と体力の向上を目指し、安全で明るく豊かな生活の実現を目指します。

2　３年間で学ぶ内容・・・全学年　週３時間（105 時間）

（1）　体育分野

（A）体つくり運動（B）器械運動（C）陸上競技（D）水泳（E）球技（F）武道
（G）ダンス（H）体育理論　　の内容について学習していきます。

（2）　保健分野

（ア）健康な生活と疾病の予防　（イ）心身の機能の発達と心の健康
（ウ）障害の防止　（エ）健康と環境　　の内容について３年間で学習していきます。

3　評価の観点・対象と方法

保健体育科では、日常の学習への取組や定期テスト、技能テスト、ワークシートやレポートの提出などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の３つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観　点　別　の　内　容	評価対象・方法
【知識・技能】 （１・２年） 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解しているとともに、各運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 （３年） 各運動の技の名称や、行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解しているとともに、各運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	・授業への取組 ・技能テスト ・定期テスト ・振り返りの内容 ・レポートの内容
【思考・判断・表現】 （１・２年） 運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 （３年） 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	・授業への取組 ・ワークシート ・レポートの内容 ・振り返りの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 （１・２年） 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組むことができる。 （３年） 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動を楽しむことができる態度を身に付けている。	・授業への取組 ・ワークシート ・レポートの内容 ・振り返りの内容

Ⅷ-① 技術・家庭科（技術分野）

1　学習の目標

技術の見方・考え方を働かせて、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を高めます。

（1）生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について理解して、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めます。

（2）生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養います。

（3）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し、創造しようとする態度を養います。

2　３年間で学ぶ内容

１年生　週　2　時間(35 時間)
２年生　週　2　時間(35 時間)
３年生　週 0.5 時間(18 時間)

材料と加工の技術	情報の技術
生物育成の技術	エネルギー変換の技術
情報の技術	

3　学習の心得

（1）授業に主体的に取り組みましょう

技術・家庭科は、生活や社会に係る題材によって成り立っています。授業では、自分に関係していることとして考え、課題を見つけ、解決しましょう。今の自分の考え方に、技術・家庭科なりの考え方を取り入れて、振り返りを大切にしながら粘り強く取り組むことが大切です。

（2）生活や社会との関わりの中で、学んだことを活かしましょう

技術・家庭科は、生活や社会を豊かにすることについて学んでいく教科です。学習した内容を、積極的に生活や社会に活かしていきましょう。

4　評価の観点・対象と方法

技術・家庭科（技術分野）では、日常の学習への取り組みや実習の様子、定期テスト、ノート（ワークシート含む）、提出物などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の３つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観　点　別　の　内　容	評価対象・方法
【知識・技能】 生活や社会で利用されている技術について理解して、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めているか。	授業への取組 製作実習における技能 定期テスト、単元テスト ノート・レポートの内容
【思考・判断・表現】 技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策の構想や製作図等による表現、試作等により解決する活動を通して、課題を解決する力が養われたか。	授業への取組 定期テスト ノート・ワークシートの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し、創造しようとする態度が養われたか。	授業への取組 ノート・ワークシートの内容

Ⅷ-② 技術・家庭科（家庭分野）

1　学習の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成します。

（1）生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けます。

（2）生活の中から問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力を養います。

（3）よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養います。

2　３年間で学ぶ内容

１年生　週　２　時間(35 時間)
２年生　週　２　時間(35 時間)
３年生　週 0.5 時間(17 時間)

消費生活・環境	衣食住の生活（衣）
衣食住の生活（住，食）	
家族・家庭生活	

3　学習の心得

（1）授業に主体的に取り組みましょう

技術・家庭科は、家庭生活や社会に係る題材によって成り立っています。授業では、自分に関係していることとして考え、課題を見つけ、解決していきましょう。今の自分の考え方に、技術・家庭科なりの考え方を取り入れて、振り返りを大切にしながら粘り強く取り組むことが大切です。

（2）生活や社会との関わりの中で、学んだことを活かしましょう

技術・家庭科は、生活や社会を豊かにすることについて学んでいく教科です。学習した内容を、積極的に生活や社会に活かしていきましょう。

4　評価の観点・対象と方法

技術・家庭科（家庭分野）では、日常の学習への取り組みや実習の様子、定期テスト、ノート(ワークシート含む)、提出物などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の３つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観　点　別　の　内　容	評価対象・方法
【知識・技能】 生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けられたか。	授業への取組 定期テスト　作品 確認テスト ノート・レポートの内容
【思考・判断・表現】 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力が養われたか。	定期テスト ノート・ワークシートの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度が養われたか。	授業への取組 ノート・ワークシートの内容

Ⅸ 外 国 語（英 語 科）

1　学ぶ目的・目標

外国語による見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指します。

（1）外国語の音声や表現方法等を理解し、実際にコミュニケーションがとれる力をつける。

（2）場面に応じて、外国語による簡単な情報を理解し、表現したり伝え合ったりできる。

（3）相手の文化を理解しつつ、他者に配慮しながら主体的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。

2　3年間で学ぶ内容

1年生 週4時間（140 時間）
2年生 週4時間（140 時間）
3年生 週4時間（140 時間）

聞くこと	話すこと（やりとり）	話すこと（発表）	読むこと	書くこと
聞くこと	話すこと（やりとり）	話すこと（発表）	読むこと	書くこと
聞くこと	話すこと（やりとり）	話すこと（発表）	読むこと	書くこと

3　学習の心得

（1）授業に主体的に取り組みましょう

英語を用いて自分の気持ちや考えを英語で表現し、コミュニケーションを取れるようになることが言語学習の目的です。コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて身近なことについて話したり聞いたりするとともに、語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり書いたりする基礎的な力を養いましょう。

（2）「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」４つの技能を伸ばします

① 聞くこと…身近な事柄について簡単な語句・表現から具体的な内容や短い話の概要を捉え、図や表と照らし合わせて聞き取れるよう、たくさんの英語音声を聞きましょう。デジタル教科書や教科書に記載されているＱＲコードを利用するとよいでしょう。

② 話すこと…話す活動はやりとりと発表に分けられます。やり取りを中心とした活動では、自分の考えや気持ちを既習内容や表現を用いて伝え、同時に相手の伝えたいことを聞く態度も大切にしましょう。発表を中心とした活動では、テーマや状況に応じて、既習内容や表現を用いて発表し、同時に周囲の発表を聞き学ぶ態度を大切にしましょう。

③ 書くこと…自分の伝えたいことにふさわしい表現を選んで、語順（文法）を意識しながら書き、練習しましょう。また、書ける＝読めることを意識しましょう。

④ 読むこと…聞いた音声を真似して声に出し、声に出した音と情報をつなげて理解するようにしましょう。読めない語句は必ず確認しましょう。

言語は、上記のように繰り返せば繰り返すほど内容が身につきますので、日々試行錯誤しながら学習しましょう。

（3）家庭学習の進め方・取り組み方・・・別紙参照

（4）ワークブックやＡＩドリルに繰り返し取り組み、学習内容を定着させましょう

ワークは各問題を繰り返し解きましょう。文法などの大切な個所をまとめ、演習を行い、自分でテストして力試しをすることを勧めます。間違えた問題はできるようになるまで何回も解

き直しましょう。

（5）個人用ＰＣを活用しましょう。

ＰＣで正確な発音を確認することができます。ＡＩドリルに取り組んだり、上記のように英語音声の動画を視聴したりすることも有効です。文章作成アプリなどで、スペルを確認したり、より適切な単語や表現を検索したりすることができますが、文章をそのまま翻訳すると正確に翻訳できていないことがあります。必ず確認作業を行い、上手に活用してください。

4　評価の観点・対象と方法

英語科では、日々の学習への取り組みや定期テスト・単元テスト・ノート・提出物などをもとに総合的に評価を判断します。具体的には以下の３つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それらを基に評価をします。

観　点　別　の　内　容	評価対象・方法
【知識・技能】英語使用の正確さ 英語の言語としての働きを理解し、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けている。 ・音声や語彙，表現，文法，言語の使い方に関する事項：(例) 発音・スペリング・符号・語・連語及び慣用表現・文法など ・聞くこと・読むこと・話すこと・書くことに関する事項	・定期テスト ・単元テスト，小テスト ・リスニング活動 ・ノート，ワークシート等の記述 ・学習課題の達成状況 ・ふり返りの内容等
【思考・判断・表現】表現内容の適切さ 会話の場面や状況に応じて英語で簡単な情報や考えを整理・理解したり、それらを表現して伝え合ったりする力を養っている。 ・英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項 ・言語活動及び言語の働きに関する事項 ア「聞くこと」 (例)日常的な話題・店や公共交通機関のアナウンスの要旨理解 イ「読むこと」 (例)日常的な話題・手紙やメール・説明文等の情報の整理・理解 ウ「話すこと（やりとり)」 (例)会話の継続をするあいづち・適切な応答・共感的受容 エ「話すこと（発表)」 (例)考えや情報の整理・情報の取捨選択・適切な話題選び オ「書くこと」 (例)題材の設定・情報の収集と選択・文章の構成・適切な表現	・定期テスト ・単元テスト，小テスト ・発表内容 ・リスニング活動 ・ノート，ワークシート等の記述 ・学習課題の達成状況 ・ふり返りの内容等

【主体的に学習に取り組む態度】言語活動における態度 英語(外国語)の背景にある文化に対する理解を深め、相手（受け手）のことを考えて主体的にコミュニケーションをしようとする態度を養っている。 （1）知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた、粘り強い取組を行おうとしているか。 （2）（1）に取り組むことで考えを深め、話したり書いたりする表現を繰り返し行うなど、授業外でも主体的に外国語習得・活用を図ろうとしているか。	※【知識・技能】・【思考・判断・表現】を主体的に活用して言語活動に取り組もうとする態度や姿勢、及びその様子を評価します。 ・会話活動への取組 ・パフォーマンステスト ・発表態度 ・授業中の発言・態度 ・ノート，ワークシート等の記述 ・自己評価や相互評価の状況 ・振り返りの内容等

X 特別支援学級

1．概要

陽北中学校には、知的障害学級と自閉症・情緒障害学級があり、障害による学習上又は生活上の困難を克服することを目的としています。

中学校での学習において、特別な教育課程を編成し、多様な学びの場や少人数制の授業を展開し、適切な指導及び支援を実施しています。

2．教科指導

（1）習熟度に合わせた教科指導（授業時数は通常の学級に準ずる）

① 小学生までの内容
② 中学校 1 年生の学習内容
③ 中学校 2 年生の学習内容
④ 中学校 3 年生の学習内容

※生徒の実態によってグループ分けは変更する場合があります。

（2）自立活動

個々の生徒が自立を目指し、障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を養います。

「健康の保持」「環境の把握」「心理的な安定」「心身の動き」「人間関係の形成」「コミュニケーション」について学習します。

（3）交流及び共同学習

障害のある生徒と障害のない生徒が一緒に参加する活動であり、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことと、教科等のねらいの達成を目的としています。

陽北中学校でも、生徒・保護者・教職員と話し合いの上、交流及び共同学習を実施しています。

4．学習評価

特別支援学級においても、各「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別学習状況の評価を行います。評価・評定は各教科の観点別の内容に基づき、授業担当者を中心に特別支援学級担当教員で評価を行います。